

# 同窓会この一年のアラカルト

## 創立一二三〇周年記念イベント

母校創立130周年記念「秋のイベント」の一環として、昨年11月20日に「一中・二女時代の歴史探訪」を実施し、大勢の同窓生が参加しました。

### 温故知新 バスツアー

このうち「温故知新バスツアー」では、戦争をはさんでの激動の時期に多くの同窓生の学んだ校舎跡を巡り、当時の関係者の皆さんの話しを聞きました。

バスは最初に烏城へ。当時の一中の校門や校舎跡、戦後青空教室の行われた石段などを見て回りました。朝日高開校式のあった場所では、一高・二女高の男女生徒対面式の秘話も聞く事が出来ました。また石垣に岡山一中跡の小さな石碑がはめ込まれていました。風化が進んでおり、何らかの対策の必要を感じました。



行われた現伊島小を經由して吉備津神社へ。宮司さんの説明の後、七五三で賑わう境内を、回廊を通り青空教室のあった石段へ。戦後吉備線沿線や庭瀬などの生徒が一時ここで学びました。後日嬉しい事に記念碑が建立されました。(p10写真参照)

その後、最後の目的地である蕃山町の二女跡へ。敷地の一部は旧岡山藩藩学跡として公園化されています。ここで昭和11年「岡山の学習院」を旨し創設された二女の、草創期からの話しを聞く事が出来ました。

### 放談会

バスツアーに引き続き国際ホテルで午後2時から行われた放談会では、戦中・戦後の母校に関する写真の映像ショーの後、高原勝哉副理事長の司会で六人のパネリストから当時の学校生活や青春の思い出を語っていただきました。

武村幸子さん(二女・昭和16年卒)は「歴史が短い上、今は跡形もなく、想像するのが難しい二女ですが、当時まだ戦時色があまりなく、楽しく明るい女学校生活でした。」その後武村さんは、二女の教師となり、終戦を動員先の工場で迎えました。

武居俊郎さん(一中・昭和18年卒)は、角帽や制服・当時の学校生活について説明をし、うどん屋に入っても謹慎処分だったことや、戦時中でも英語の授業がしっかり行われたと語りました。

谷本貞人さん(一中・昭和20年卒)「入学した年に太平洋戦争が始まり、動員のまま卒業し不幸な時代でした。でも英語の授業はしっかり行われていました。」と話し、武居さんはその後、高校の英語教師として活躍、谷本さんは関西外大設立に参画しました。

桑原美津子さん(二女・昭和23年卒)は



和23年卒)は3年生の時、岡山空襲に遭い、この日のことを「焼け跡の乙女達」という思い出にまとめ朗読。動乱の時代で悲しみや苦しみは多かったが、その中にも青春は確かにあったと語りました。

朝日高校一期生(昭和25年卒)の谷義仁さんと榎並英子さんは昭和19年一中・二女へ入学。その後、一高・二女高、そして朝日高校と校名が変わりました。谷さんは岡山空襲の際、燃え尽きようとする校舎と火の塊になった烏城を目の当たりにし、それでも「戦争なんかには負けられないと思った」と語りました。

榎並さんは、24年10月の朝日高校開校式で一高・二女高が向かい合っていた対面式の際、奉書なしで挨拶をして絶賛され語り草になりましたが、実はノートの切れ端に原稿を書いていたため、ポケットから出せなかつたのだとの秘話を明かしました。それで

和23年卒)は3年生の時、岡山空襲に遭い、この日のことを「焼け跡の乙女達」という思い出にまとめ朗読。動乱の時代で悲しみや苦しみは多かったが、その中にも青春は確かにあったと語りました。

朝日高校一期生(昭和25年卒)の谷義仁さんと榎並英子さんは昭和19年一中・二女へ入学。その後、一高・二女高、そして朝日高校と校名が変わりました。谷さんは岡山空襲の際、燃え尽きようとする校舎と火の塊になった烏城を目の当たりにし、それでも「戦争なんかには負けられないと思った」と語りました。

榎並さんは、24年10月の朝日高校開校式で一高・二女高が向かい合っていた対面式の際、奉書なしで挨拶をして絶賛され語り草になりましたが、実はノート

### 平成16年 同窓会総会・ 懇親会

11月20日、総会・懇親会が、国際ホテルでおこなわれました。今回の当番学年は、二七年・三七年・四七年・五七年・平成四年卒でした。

当日は、高祖理事長・柴岡校長の挨拶で総会が始まり1年間の活動報告のあと、田中宗雄京浜会長、足立通近畿幹事から挨拶をいただきました。当日二五〇名の出席者の中で最年長・昭和九年卒の田中武彦さんの乾杯の音頭で懇親会の幕が開けられました。どのテーブルも旧交を暖めるほほえましい光景が続き、談笑がいつまでも絶えませんでした。だが、五七年卒の国末しをんさんのフラメンコがいつそう会場を華やいだ雰囲気にしていました。

